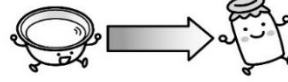


1月24日～30日
全国学校給食週間

学校給食の歴史と献立の 移り変わり



明治22年の給食「おにぎり、塩ザケ、漬物」

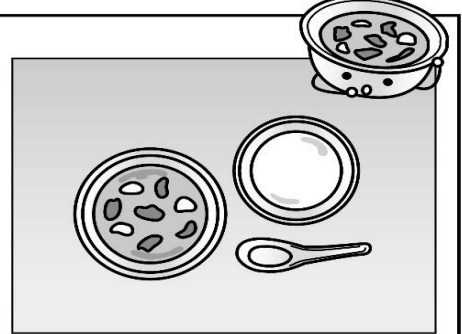
日本の学校給食の歴史は、明治22(1889)年に山形県にある小学校で、貧しい子どもたちへ昼食を無料で提供したのが始まりとされています。その後、各地で給食が実施されるようになりますが、戦争などの影響で中断されてしまいました。そして戦後、支援物資による給食再開を記念して設けられたのが、1月24日～30日の「全国学校給食週間」です。再開された給食が、どのような歴史をたどってきたのかを見てみましょう。

昭和22年 ● 給食が再開される (1947年)



昭和21年12月24日、東京都内の小学校でアメリカのLARA(アジア救済公認団体)より給食用物資の贈呈式が行われ、昭和22年1月から全国約300万人の児童に対して、脱脂粉乳や缶詰などを用いた給食が始まりました。

★当時の給食「ミルク、トマトシチュー」

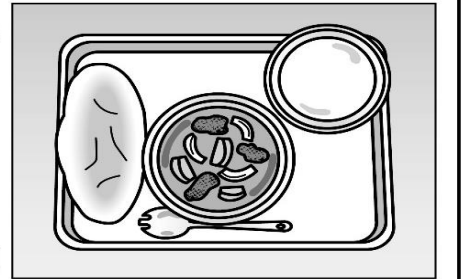


昭和25年 ● パン・ミルク・おかずの (1950年) 「完全給食」に



アメリカから寄贈された小麦粉を使い、パン・ミルク・おかずがそろった給食が実施されるようになりました。

★当時の給食「コッペパン、ミルク、カレーシチュー」

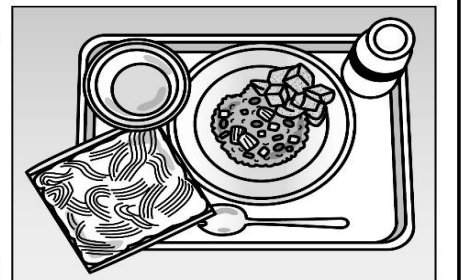


昭和38年 ● ソフトめんが登場、 (1963年) 脱脂粉乳から牛乳へ



ソフトめんが学校給食に採用され、メニューの幅が広がっていきました。また、昭和39～43年にかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わりました。

★当時の給食「ソフトめんミートソース、牛乳、フライポテト、桃缶」

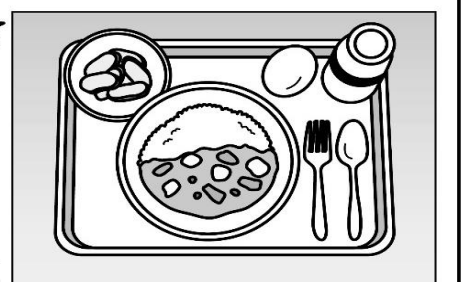


昭和51年 ● 米飯給食が正式に始まる (1976年)



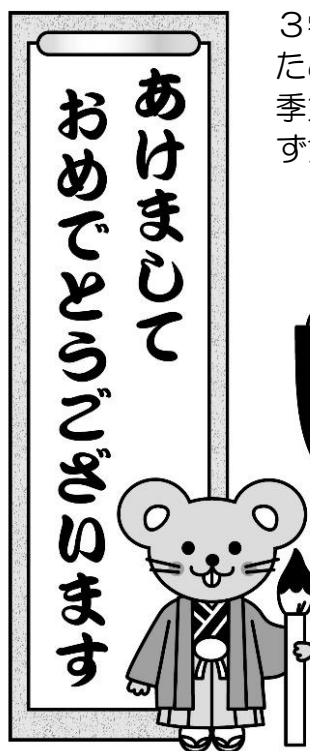
パンが中心の給食から、少しずつ米飯給食が増えていきました。当初はご飯を炊くための設備が整わず、月に数回程度の実施でしたが、米飯給食は子どもたちに大好評でした。

★当時の給食「カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵」



「早ね・早おき・朝ごはん」

年が明け、新しい1年が始まるとともに、学校では1年のまとめとなる3学期が始まりました。勉強や運動に自分の力をしっかりと発揮していくためには、朝ごはんが重要です。朝の冷え込みが厳しく起きるのがつらい季節ですが、早寝早起きの規則正しい生活習慣を身につけ、朝ごはんを必ず食べてから登校するようにしましょう。



頭がすっきりして、勉強に集中できる



体が温まり、元気に活動できる



便が出て、おながすっきりする

本年も安心・安全に気をつけて、おいしい給食作りに努めていきたいと思えます。引き続きよろしくお願いいたします。



◎ 横瀬小学校で朝ご飯についてのアンケートを実施しました。結果は、次のとおりです。

令和元年11月
回答人数 350人

1 朝ご飯を食べますか

- | | |
|------------------|------|
| ① 毎日食べる | 331人 |
| ② 2～3日食べないことがある。 | 13人 |
| ③ 4～5日食べないことがある。 | 4人 |
| ④ ほとんど食べない | 2人 |

2 朝ご飯の内容は、次のどれにちかいですか？

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ① 「ごはん・パン・めん」などだけ | 53人 |
| ② 「ごはん・パン・めん」とみそ汁やスープ
または飲み物 | 84人 |
| ③ 「ごはん・パン・めん」とおかず | 70人 |
| ④ 「ごはん・パン・めん」とおかずとみそ汁
やスープまたは飲み物 | 127人 |
| ⑤ みそ汁やスープまたは飲み物だけ | 2人 |
| ⑥ そのほか (①～⑤にあてはまらないもの) | 14人 |

主食(ごはん・パン・めん)だけでなく、④のような栄養バランスのよい朝ご飯を食べると、さらに元気がでますね。

